

お問い合わせ先

戦国屈指の知将

小早川隆景

ものがたり ④



三原城を築城し、現在の三原市の礎を築いた小早川隆景。広報みはら最終ページでは「小早川隆景ものがたり」を連載し、みなさんと一緒に隆景の生涯をたどります。

隆景の2人の兄、隆元と元春

安芸国(現在の広島県西部)の一部を治めていた毛利元就とその妻・妙玖(みよたづ)の間に生まれた隆景には、10歳違いの兄・隆元と3歳違いの兄・元春がいました。

元就は毛利家の発展には有力量な領主と関係を築いておく必要があると考え、妻の実家であり、山陰地方に勢力のあった吉川家へ次男・元春を、瀬戸内を治めていた小早川家に三男・隆景を養子に出しました。

隆元は真面目で温厚な人柄で内政・財務能力に長けており、元春は勇猛な性格で、元就が「戦においては元春には及ばぬ」と絶賛するほどの軍事的才能に優れていたといわれています。

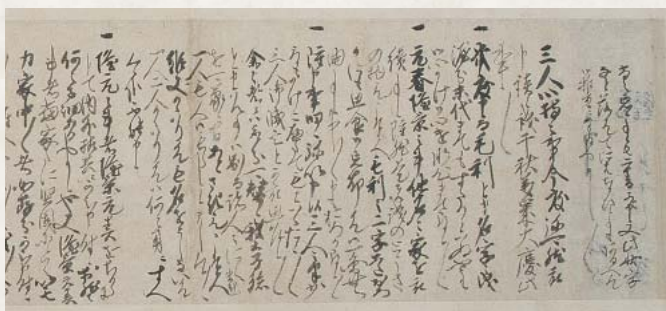
三子教訓状

60歳になった元就は、弘治3(1557)年11月25日、隆元・元春・隆景の3人の息子に手紙を送りました。これは「三子教訓状」と呼ばれています。

- 一、元春と隆景は他家を相続しているが毛利を忘れることがあってはならない
- 一、3人の間に少しでも隔たりがあれば3人も滅亡するだろう
- 一、隆元は元春・隆景と意見の違いがあっても我慢し、元春・隆景は兄の言うことに従うこと
- 一、孫の代までも、この教訓を忘れないでほしい。そうすれば、毛利・吉川・小早川の

3家は数代を保つことができらるだろう

などの内容が書かれています。



▲三子教訓状(毛利博物館蔵)

この教訓状は、元就が毛利家の当主となった長男・隆元の苦悩を取り上げて、元春と隆景を交えた毛利家の新しい体制作りについて述べた政治的な意味の深いものでした。元春と隆景が他家を継いだとはいえ、再び毛利家の中に入り、その運営の中核に参加するように求めています。この体制は元春の吉川家、隆景の小早川家という2つの

名字に川が使われていることから「毛利両川体制」と呼ばれています。

元就は息を引き取る際に3人の息子を集め、「一本の矢はたやすく折れるが、束ねた矢は折れない」と教えたという三矢の訓の話は、後世に三子教訓状に込められた思いを分かりやすく整理したものと考えられます。

みはら歴史館では三子教訓状の複製や現代語訳を展示し

ています。元就の筆跡を身近に感じてみてください。

参考文獻
『三原市史 第二巻 通史編』
昭和52年
三原市役所 編集兼発行
『ガイドブック 毛利元就』
平成28年
(社)安芸高田市観光協会発行
『歴史群像 4月号』
平成6年 学習研究社発行



あ・と・が・き

若者×情熱のコーナーの取材で初めてデフリンピックを知りました。聴覚障害は他の障害に比べて身体能力への影響が少ないなどの理由で、パラリンピックへの出場が認められていないことから始まったそうです。合図だけでなく、気合を入れる掛け声もない状態でのプレー。そんな中でも良いプレーが出来るように呼吸が合うまで練習していると狩野さんは話されています。▼逆境を跳ね返してきた狩野さん。世界へ挑戦する狩野さんへ皆さんからもエールをお願いします(Y)

三原市の人口(5月31日現在)
※外国人住民を含む。
※()内は前年同月との比較。

世帯数	44,067 世帯 (-76)
人口	96,291 人 (-1,128)
男	46,151 人 (-507)
女	50,140 人 (-621)

人口移動の詳細については
広島県 人口移動 月報 で
検索

税などの納期(普通徴収)

- 固定資産税・都市計画税(第2期)
- 国民健康保険税(第1期)
- 介護保険料(第1期)
- 後期高齢者医療保険料(第1期)

納期限 7月31日(月)
夜間収納窓口(19時まで)
毎週木曜日

航空機の騒音測定結果(5月分)(Lden)

- ▶正広局(本郷町善入寺正広)=50.4
- ▶本郷局(本郷町船木川西上)=53.5